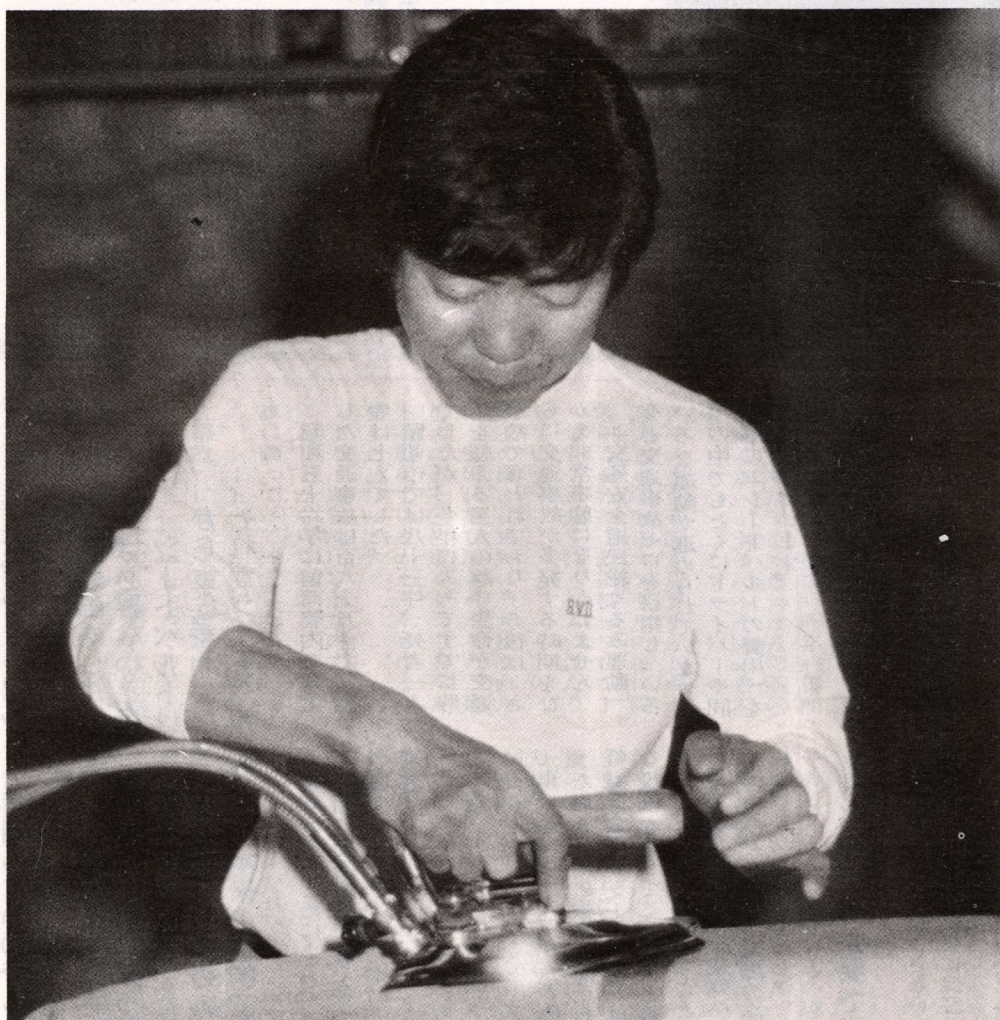




# いもる

'82  
10月

第295号



## 働く人

### ワイシャツに残る アイロンの走跡

石川昌一さん

アイロンから漏れる蒸気の音。洗濯物を乾かす熱。まるで蒸気機関車のかま場にいるようだ。

額に汗を浮かべ仕事に励む石川さん。

「20年前、中学校を卒業してすぐにこの仕事に入りました。どの仕事も同じだと思いましたが、親方や先輩に仕込まれましたね……」

一番の苦労といえば、しみ抜きでした。始めの頃は、しみ抜きするときよく生地をいためて親方から怒られていました。いまでもしみ抜きは、神経を使います。

最近は、暑さと立ち放しがつらくなってきました。歳のせいかもしれませんね。

昔と違ってきたのは、手作業でやっていたのが、段々機械が人にとってやるようになってきました。」

職人と呼ばれる仕事。ここでもやはり後継者がいないという。

〈共栄クリーニング勤務〉